

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

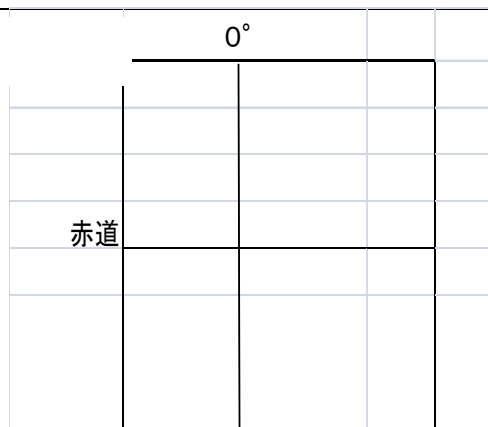
【実践者】

氏名	鎌田 理子	学校名 千葉市立稲毛中学校	千葉県 千葉市立稲毛中学校
担当教科等	社会科	対象学年（人数） 1 学年（112人）	1 年 3 組 （ 38 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和元年10年29日～11月19日（4時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 社会科		
2. 単元(活動)名： 世界の諸地域 第3節アフリカ州		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「SDGsの視点から考えるザンビアの発展」 単元目標：アフリカ州の自然・歴史と文化・産業の特色について、資料から基礎的・基本的な知識を身につける。関連する学習指導要領上の目標：世界の諸地域について、以下の（ア）から（カ）の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地理的特色を理解させる。 （ア）アジア （イ）ヨーロッパ （ウ）アフリカ （エ）北アメリカ （オ）南アメリカ （カ）オセアニア		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	○アフリカの地理的な基本情報を理解する。 ○アフリカの課題について、都市化、人口増加、歴史的背景などから多角的に理解する。
	②思考力、判断力、表現力等	○読み取った統計資料からアフリカの地理的特徴について考察する。
	③学びに向かう力、人間性等	○アフリカのモノカルチャー経済からの変化を自立に向けての様々な努力を踏まえて考察し、他者にその意見を伝えることができる。 ○アフリカ州の課題を、SDGsの17のゴールから考え、意見交換することができる。

5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 本単元のアフリカ州は、人類発祥の地であり、四大文明のひとつであるエジプト文明も歴史的分野で学習している。さらにニュースなどでの報道もあるため、生徒たちはある程度の知識は得ている。古い歴史を持つ地域でありながら、帝国主義の進展によって、1884年のベルリン会議で確認された「先占権」を基本とするアフリカ分割のルールのもと、ヨーロッパの植民地支配を受け、リベリアやエチオピアなどごくわずかな地域を除いては、ほかの州と比べて独自の文化の継承がなされていない。経済的には、ほぼすべての国において農業や鉱業が産業の中心となった植民地時代から続くモノカルチャー経済を基盤としており、日本をはじめとする先進工業国、新興国の様々な援助を受けているという脆弱な経済基盤が貧困や民族対立など多くの問題につながっている。このことから、この州の特徴を考える動態地誌の主題を「モノカルチャー経済の課題と今後の発展」に設定したいと考えた。 後述する指導観からもわかるように一般的に中学校1年生段階の生徒のアフリカ州に対するイメージは一面的なものといえるので、このモノカルチャー経済の問題点、課題点を踏まえたうえで解決の取り組みをとらえる地理的思考力の育成をねらいたい。ここでの取り上げる地理的思考力とは、データに基づいた構造的な地域認識から、それぞれの地域の地理的条件のもとに生活が成り立っていることに気づき、一面的ではない正しい地域像を自分なりに説明できるようになることである。 また、世界を六州に分類して地誌学習を行うというこの中単元の過程で、各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、それらは諸条件の変化に伴って変容していくことを理解し、最終的には多様な文化を尊重する態度を身に付けさせることが、教科目標である公民的資質の基礎につながると考えた。 【単元の意義】 「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」の3分野にまたがる教科の特性にも配慮すると、アフリカ州については2年生の歴史的分野で欧米列強の植民地支配を扱い、3年生の公民的分野では地域紛争や南北問題について触れることになる。このことも踏まえて、1年後2年後の学習にもつなげられるよう、単純な地理的知識の習得に留まらないよう十分な思考や意見交換の場面を設定する必要がある。このねらいからも、アフリカ州は「モノカルチャー経済からの脱却」という州全体の共通課題をかかえる地方的特殊性が強く、生徒の地理的思考力の育成を目指すために適する単元であるといえる。 【生徒観】 生徒のアフリカ州に対する予備知識とイメージを確認するため質問紙による調査を実施した。本学級には、アフリカ州に行ったことのある生徒はおらず、アンケートに書かれている事項などはこれまでの授業のほか、本やテレビ、インターネットなどから得たものであると考えられる。なお、欠席者がいたため回答者数は在籍数38名に対し36名である。 1. アフリカ州についてのレディネステスト (1) アフリカ州にある、知っている国の国名を書きましょう。 <table><tr><td>・エジプト (8人)</td><td>・南アフリカ共和国 (12人)</td><td>・ケニア (5人)</td><td>・ガーナ (6人)</td></tr><tr><td>・赤道ギニア</td><td>・南スーダン</td><td>・リビア</td><td>・エチオピア (3人)</td></tr><tr><td>・中央アフリカ</td><td>・マダガスカル (2人)</td><td>・ナイジェリア (3人)</td><td>・コンゴ民主共和国</td></tr><tr><td>・アルジェリア</td><td>・コートジボワール</td><td>×クウェート</td><td>×アルゼンチン</td></tr><tr><td>×ブラジル</td><td colspan="3">×アフリカ (多数)</td></tr></table> (2) 以下の白地図にアフリカ州の略地図を描きましょう。(前期の既習事項)	・エジプト (8人)	・南アフリカ共和国 (12人)	・ケニア (5人)	・ガーナ (6人)	・赤道ギニア	・南スーダン	・リビア	・エチオピア (3人)	・中央アフリカ	・マダガスカル (2人)	・ナイジェリア (3人)	・コンゴ民主共和国	・アルジェリア	・コートジボワール	×クウェート	×アルゼンチン	×ブラジル	×アフリカ (多数)		
・エジプト (8人)	・南アフリカ共和国 (12人)	・ケニア (5人)	・ガーナ (6人)																		
・赤道ギニア	・南スーダン	・リビア	・エチオピア (3人)																		
・中央アフリカ	・マダガスカル (2人)	・ナイジェリア (3人)	・コンゴ民主共和国																		
・アルジェリア	・コートジボワール	×クウェート	×アルゼンチン																		
×ブラジル	×アフリカ (多数)																				



○	11 人	×	35 人
---	------	---	------

※×のうち大陸の形は合っている
生徒 13 人

(3) 以下の世界の各州について親しみを感じますか？

	親しみを感じる	親しみを感じない	どちらとも言えない
アジア州 (学習済)	28 人	5 人	3 人
ヨーロッパ州 (学習済)	18 人	6 人	12 人
アフリカ州	5 人	17 人	14 人
北アメリカ州	10 人	9 人	17 人
オセアニア州	8 人	12 人	16 人
南アメリカ州	6 人	12 人	17 人

(4) アフリカ州について持つイメージを自由に記述して下さい。

象 (多数) 砂漠 (多数) 乾燥帯 (多数) 猛獣 危険 サバンナ チーター ライオン ラクダ
 レインフォレスト 自然がたくさんある 動物がたくさんいる 森 民族 植民地 サヘル
 ナイル川 黒人差別 南アフリカの発展 1960年アフリカの年 カカオ豆 ダイヤモンド 石油
 ギニア湾 北部はイスラム教徒、南部はキリスト教徒が多い 飢餓 熱帯雨林 湿気 暑い 黒人

2. 学習形態・関心意欲等についての調査

(1) 友人と協力して学習することは好きですか？

好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
25 人	11 人	0 人	0 人

(2) 地理と歴史 どちらの授業の方が「今の自分」とよりつながりを感じられますか？

地理	歴史
15 人	21 人

(3) どのような授業が「理解しやすい」「その事象と今の自分とのつながりを意識できる」かを問う意識調査

①～⑨の活動であてはまるものに○をしてください。(いくつでも)

項目	① 暗記	② 作業	③ グループ	④ 一人で調べる	⑤ ほかの人の発表を聞く	⑥ 自分で発表する	⑦ 写真や実物をみる	⑧ 先生の話を聞く	⑨ ノートやワーク
理解しやすい	27.7 %	2.7 %	66.6 %	13.8 %	22.2 %	13.8 %	75.0 %	65.5 %	58.3 %
自分とのつながりを意識できる	30.5 %	13.8 %	50.0 %	30.5 %	36.1 %	11.1 %	75.0 %	58.3 %	55.5 %

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3. SDGs についての認識を問う調査

①以下のロゴまたは SDGs という単語を知っていますか？（カラーで提示）

知っている	6 人	知らない	30 人
-------	-----	------	------

②（知っている生徒について）どこで知りましたか？

・学校にあった掲示物・TV・科学館

※4. の補足調査として、同じ質問を稲毛中学校の教職員に行ったところ以下の結果となった。

知っている	8 人	知らない	21 人
-------	-----	------	------

知ったきっかけ ・教育センター研修 ・SA ・校内掲示物 ・TV の CM ・ニュース
・高校の先生と話をしたとき ・家庭科部会にて ・JICA の教員向け研修

大問1（1）より、生徒の持つアフリカ州のイメージは歴史的分野で扱ったエジプトの影響が大きいことがわかった。その他複数名の解答があった国については、地理的分野の導入で行った「どれだけ知っているかな」という活動で扱った国がほとんどである。教科書の導入部分に紹介されているアフリカ州の国は南アフリカ共和国のみである。北アフリカはいくつかの国の名前があがったが、サハラ以南、特に赤道以南のアフリカ州南部・また内陸部の国はほとんど生徒に認識されていない。今回の授業で例としてとりあげたいザンビア共和国について知っている生徒は0であった。また、「アフリカ」という誤答が多々見られ、州の名前と国名を混同している生徒が多く、生徒が普段いかにこの地域の情報に触れていないかがうかがえる。大問1（2）からは世界をながめた場合のアフリカ州の位置と形は前単元で略地図の練習をしたこともあり、大陸の地形は比較的良好に認識されているが赤道や本初子午線との位置関係は不明確である。大問1（3）からは、世界六州の中でアフリカ州に対して「親しみを感じない」と答えた生徒の人数が最も多く、また距離的にはさらに遠い南アメリカ州に「親しみを感じる」という生徒より、アフリカ州に「親しみを感じる」という生徒がいないことから、日常生活の中で最も関心を持っていない生徒が多い地域であることがわかった。大問1（4）については、世界三大宗教と気候帯の学習をすでに終えているため、この州の中に熱帯と乾燥帯があることなどは理解している生徒もいた。また、カカオなどまだ扱っていない事項について知っている生徒もいた。

大問2（1）からは、この学級の生徒は友人と協力して学習するスタイルを肯定的に捉えていることがわかる。大問2（2）は、「今の自分」とのつながりを考える生きた資料として地理より歴史を選んだ生徒が多く、地理的な事象を自分たちの生活とからめて考えられる生徒の方が少ないということがわかった。大問2（3）では、③⑦⑧の項目の数値が高かったためこのような活動を充実させると生徒の理解に効果的であると考えた。

大問3では、今回のアフリカ州の学習のまとめの活動で、アフリカ州を考える上での視

点として取り入れたい SDGs についてどのくらい知っているかということを確認したが、知識の程度の違いはあれ SDGs を知っている生徒が 36 人中 6 人いたことは予想より多かった。それでも学級の約 80% は SDGs について全く知らないもので、この単元のみでいきなり SDGs を扱うのではなく、事前の単元でもゲームなどの活動を取り入れて SDGs についての種まきをしていく必要を感じた。 【指導観】 以上のことから、アフリカ州の学習を進めるにあたって①②の生徒の実態を浮かび上がらせ、重点的に指導したい点を以下の 2 点に絞った。	
実態	指導の重点
基礎的・基本的な知識の不足	アフリカ州の自然・歴史と文化・産業の特色について、資料から基礎的・基本的な知識を身に付ける。
アフリカ州に対する興味関心の薄さ	アフリカ州の課題と今後の展望を考える。その際にアフリカ州の課題を日本の自分たちの生活と関連して考えられるよう、SDGs の 17 のゴールからそれを考え、意見交換ができるようにする。

6. 単元計画（ 4 時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース 活用はこちらに記載
1	アフリカ州をながめて (地形・気候・歴史)	アフリカ州全外の地形や気候、歴史などの概要を理解する。	1 広大なさばくが広がるアフリカ州の地形を大観する。(サハラさばく・ナイル川・ギニア湾・赤道と本初子午線の位置) 2 降水量の分布から気候区分の特色を考える。(ラバト・カイロ・ケープタウン・リーブルビル) 3 人口分布の特色を考える。 4 アフリカの歴史的なあゆみを確認する。 5 植民地化による様々な問題（公用語・伝統文化・産業開発）について知る。 6 SDGs についての紹介	
2	アフリカの産業 (農業・鉱工業)と新たな開発	モノカルチャー経済について知り、その問題点を考える。	1 世界に輸出されるカカオを例にプランテーション農業について知る。 2 アフリカの主な農産物の分布図を作成する。 3 アフリカの鉱工業の分布図を作成する。(石油・金・ダイヤモンド・銅・レアメタル) 4 1～3の活動をもとに、農業と鉱工業の問題について考え、班と全	

			体で意見交換を行い、全体で確認する。 5 モノカルチャー経済のしくみと問題点を個人でまとめる。 6 アフリカ州を動態地誌の視点から理解する学習の「主題」を考えて設定する。	
3	アフリカの課題と展望	アフリカ州の発展の課題を考える。ザンビア共和国について教師海外研修の活動の報告を聞き、理解を深める。	1 第1時・第2時で学んだ事象（地形気候・農業・鉱工業・貿易・就労）と第2時で設定した「主題」を確認する。 2 アフリカの課題について、都市化、人口増加、環境問題などの視点から理解する。 3 考えた原因を班で伝え合い、班としての意見をまとめる。 4 4の発表と意見交換を行う。 5 自立に向けた努力についての事例を知る。（地域統合・先進工業国からの援助） 6 5と6を踏まえて個人で今後の課題を考えを文章にまとめる。 7 教師が見たザンビア共和国についての情報を聞く。 8 第1時で扱った SDGs について復習する。	
4	ザンビアの課題と今後の展望を SDGs の17のゴールから考えよう	ザンビアの課題と今後の展望を SDGs の17のゴールから考える。	1 ウォーミングアップのため SDGs カードゲームを行う（ババ抜き） 2 ザンビアの基本情報復習（面積・人口・言語） 3 エキスパート資料 教師が撮った写真と解説の3種類の資料を担当者ごとに読み取り、概要をまとめる 4 ジグソー学習 ①～③の資料読んだメンバーが混ざるようにグループを作り、それぞれが持つ情報を共有する。 5 今後のザンビアの課題として最も重要だと思うものを①～③からグループ内でひとつ選ぶ。 6 ジグソー学習の班ごとの発表 7 まとめ	

7. 本時の展開（4時間目）

本時のねらい：ザンビアにおけるモノカルチャー経済の課題と今後の発展の展望について、ジグソー学習を行って意見交流を行い、SDGs の視点と関連付けて自分の意見をまとめることができる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10分)	1 ウォーミングアップのため SDGs カードゲームを行う(ババ抜き版) 2 ザンビアの基本情報復習 ・ザンビアの面積、人口、言語 ・1964年東京オリンピック期間中に独立 ・銅の国際価格上昇と発展するザンビア ・広がる格差 ・医療水準 ・教育水準 【本時の目標確認】	○前回までに学習した17のゴールについてカードゲームをしながらそれぞれ思い出させる。 ○前時の復習を兼ね、既習事項から生徒たちに自由に発言させる。	・SDGs カードゲーム ・パワーポイント
展開 (30分)	ザンビアの課題と今後の展望を SDGs の17のゴールから考えよう		
	3 エキスパート資料を読み取る 教師がザンビアで撮った写真と解説の6種類の資料を担当者ごとに読み取り、概要をまとめる ④医療 ⑤教育 ⑥貧富の差 4 ジグソー学習を行う ④～⑥の資料読んだメンバーが混ざるようグループを作り、それぞれが持つ情報を共有する。 5 今後のザンビアの課題として最も重要だと思うものを④～⑥からグループ内でひとつ選び、その将来のために最も重視したい項目をSDGsの17のゴールから選択する。 6 発表を行う	○各グループに資料の読みとりのポイントを提示する。 ○班での活動で全員が意見を言えるように全員に個人の意見を持たせる。 ○日ごろから他教科でもグループ活動を行っていて意見交換がしやすい生活班をもととする。 ○④～⑥が混ざるようにグループを再構成する。 ○最終的なひとつの答えが存在しないということにも触れ、多角的な意見を出させる。 ○17のゴールのうち1つに絞れない場合は2つでもよいことを助言する。	・エキスパート資料 ・ワークシート ・ワークシート
まとめ (10分)	7 5と同じ質問を現在ザンビアで活動中のJICA関連の日本人数人にした際の回答を聞く。 8 感想を書く	○ザンビアのSDGs達成状況を紹介する。	・パワーポイント
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ザンビアにおけるモノカルチャー経済の課題と今後の発展の展望について、ジグソー学習を行って意見交流を行い、SDGsの視点と関連付けて自分の意見をまとめることができたか。			
9. 学習方法及び外部との連携 授業実践に際して、ザンビアに関する④医療⑤教育⑥貧富の差の3種類の資料を用意し、生徒にジグソー学習を行わせた。この資料は、研修中に現地のヘルスセンターや学校などでインタビューした内容をもとに中学1年生段階でも読み取れる量と内容を授業者側でまとめたものである。この資料を読み取った後、④～⑥の資料を読み取った生徒が混ざるように班を再度編成し、話し合い活動を行わせた。			

展開の後半で、「今後のザンビアの発展のために最も重視したい項目を SDGs の 17 のゴールから選択し班ごとに発表する」という活動を取り入れた。授業のまとめでは、これと同じ質問をザンビア事務所の方や協力隊の方に伺った際の回答を紹介した。同じザンビアで活動する日本人であっても、それぞれの立場や経験から回答が違い、生徒からも「なぜ同じザンビアで活動している日本人なのにそれぞれの答えが違うの?」「結局のところひとつの答えに絞れるのかな?」「見方によって最も重視しないといけない課題が違うのでは?」などの感想が出たので、学習内容が深まった場面であったと考える。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

この授業は、教師海外研修の研究授業であると同時に、千葉市教育研究会国際理解教育部会の授業研究としても公開して行った。市内の小中学校の国際理解教育を担当する先生方にも大勢参観していただき、教師海外研修で学んだことをどのように社会科の授業に反映させたかということについて意見をいただくことができた。授業研究後の協議会では、授業を参観された JICA 職員の方から、今回の研修や出前講座などの紹介もしていただき、国際理解に興味がある先生方のよい研修になったと思う。

また、後日、JICA 千葉デスクを通して、流山市の江戸川大学で開催される千葉県高等学校教育研究会国際教育研究部会の例会で、今回の実践などを紹介してほしいというお話をいただき、高校の先生方に向けて、研修での体験や授業実践を紹介することができた。

【自己評価】

11. 苦労した点	本単元で扱う「アフリカ州」は教科書の内容では3時間扱いの単元で、ザンビアも取り上げられていない。そこにザンビアで学んできたことをどのように絡めて発展させるかという点が最も難しかった。また、SDGsについて、1年生はこれまで学習したことがなかったので、社会科の授業の中で扱うだけでは理解が深まらないと考え、掲示物や学級活動でもSDGsについて生徒に考えさせられるように工夫した。ジグソー学習を行うのも初めてだったので、エキスパート資料をどのような分野について何通り作るかの判断が難しかった。当初は6パターン作成したが、最終的にはアドバイスをいただき、資料は①医療②教育③貧富の差の3パターンとした。
12. 改善点	授業を参観した方々から、生徒の話し合い活動の時間が十分に取れていなかったという意見がたくさん出たので、この時間の活動内容を精選することが必要である。前半のSDGsについての復習や、ザンビアの基本情報の確認などは前時に行い、この時間ではエキスパート資料の読み取りから開始していくと、最後の17のゴールから重視するものを選ぶ活動の話し合いをもう少し深めることができると考える。また、活動を単純化しようと考え、17のゴールからダイヤモンドランキングを作るのではなく、あえてひとつを選ぶという活動を入れたが、逆にひとつに絞ることが難しいという意見が出たり、各班が選ぶゴールに偏りがでるという問題点もあった。もう少し幅を持たせた選び方を工夫できればよかったと思う。

13. 成果が出た点	教科書の内容と、今回の教師海外研修で学んだことを絡めたいという目的が当初から強くあった。教員自身の経験を語ることで、ザンビアをこの地理的分野の単元の「アフリカ州」のひとつの事例として自然に扱うことができたと思う。特に効果的だったと考えるのは、現地で撮った写真や動画をたくさん生徒に見せたことである。教科書で紹介されている写真資料は、「サハラ砂漠」「キリマンジャロ山」といった地形のものや、モノカルチャー経済を象徴する「綿花の収穫」「カカオの実の収穫」、貧富の差を表す「ナイロビのビル群とスラムの様子」などアフリカのほんの一部の側面にしかすぎない。ザンビアの首都ルサカのショッピングモールの様子、学校の様子、ヘルスセンターの様子、ストリートチルドレンや孤児院の様子などをたくさん紹介したことで、生徒は「どこか遠い国のことが教科書に載っている」というだけではなく、「同じ時代に同じ地球で起きていること」として、ザンビアの発展の課題を考えることができた。また、現地で活動する日本人がたくさんいるということも生徒の興味関心を高めるうえで効果的だったようで、協力隊の方が写っている写真やインタビューの回答などを興味深く見て考えることができていた。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<生徒のワークシートより 授業全体を通しての生徒の感想> ・SDGs は 17 のゴール全てが解決しないといけないと思った。 ・ザンビアのいろんなことが分かった良かったです。 ・私たちの住んでいる日本とは全く違う暮らしをしていて全く違う問題に悩んでいるんだなと思った。医療も学校も思うようにならないことを知って私たちは恵まれているんだなと思った。私も何かできることをしたい。 ・まずは衛生面を整えるべきだと思ったけれど、よく考えるとそれだけでは国全体がよくなるので、17 のゴールを全て達成できたときに理想の状態だと思った。 ・私は「3」の健康が大事だと思っていましたが、「1」ではお金で健康状態を少し改善でき、水や教育の色々な問題が解決できるのにつながっていると思いました。 ・協力隊の人の意見の「17 番が一番大事」という意見になるほど、と思った。ザンビア人が気づいていくザンビアの国だから全てのことが大切だと思った。 ・SDGs の 1 つ 1 つのことは全部大切で、そのことをかなえるためには 1 つずつできることからやっていかないといけないなと思った。 ・(ザンビア以外の) 他国はどんなことに力を入れて発展したのか知りたいです。 ・どうしてこんなに格差が生まれてしまうのだろうとずっと思っていたのですが、SDGs の問題は 1 つ 1 つすべてが解決したとしても完璧になるとは限らないし、すごく難しいことだからうまくいってないのだとわかりました。 ・SDGs の 1 つでも達成されないものがあると、経済などが安定しなくなることがわかりました。 ・やっぱり何か 1 つが大事なのではなくて、すべてが大切なのだと感じた。 ・SDGs は 1 つだけが重要とかではなく、1 つ 1 つが意味があるので、1 つでも改善できたら何かにつながると思います。 ・最後の 3 人の意見を聞いて納得しました。どれだけお金があってもみんなとのパ

	ートナーシップができていないと意味がないのだと感じました。 ・私は「1」の貧困をなくそうを選びましたが、先生の話にもあったように1人1人の意見によって大切なことが違っていてどれも欠けてはいけないと思うことができました。 ・SDGs のことについてよく考えるようになったと思う。すごく複雑なので、どれか1つが欠けてしまっても駄目だから全てを達成できるようにしたい。 ・アフリカ州には色々な問題があることを改めて知った。SDGs には答えがないと感じる人が多く、僕もその中の1人で全くその通りだと思いました。 ・「貧困をなくしたほうがいい」と思っていたが、貧困のことだけではなくていろんな問題をこれから考えていかないといけないと思った。
15. 授業者による自由記述 (教師海外研修に参加した本学習指導案作成者として、他の教員へのメッセージなど)	ただ現地に行って、言われるがままに見学をしてくるのではなく、事前研修でSDGs やその他たくさんのことを学び、JICA 職員の方にもアドバイスをいただきながら参加者同士で情報共有や交換をし、研修に臨めたことで非常に有意義なザンビアの滞在になった。最初は「現地で授業の教材をたくさん集めなくては」という固い頭でザンビアに向かってしまっていたが、日々のふりかえりの際に、日本から引率として一緒に参加して下さっている JICA 職員の方々がかつて青年海外協力隊であったときの視点や、海外事務所で勤務したときの視点などからもアドバイスをいただけたことで、「教材としてではなく、まず自分がザンビアについて何を見てどう感じるのかを大切にしよう」と考えるようになった。 JICA ザンビア事務所で「青年海外協力隊の方たちの志望動機などを聞くと、海外や国際協力に興味をもったきっかけが大学生以降にあったという人は非常に少ない。多くの人が、小中高校生の頃に、印象的な授業を受けた、海外に関する面白い話を先生がしてくれたということがきっかけでこの道に進んでいる」というお話を伺い、非常に印象的だった。ザンビアでの経験をもとに、今回の授業を実践してみて、生徒の心のどこかに残る種まきができればいいなと考えている。 今回の研修は、県や校種、教科も違う先生方が集まったことで、現地で同じものを見ても、反応するポイントや授業に活かしたいと考えるポイントが違い、「小学校ではこうやって授業で扱うのか」「高校では中学校で扱わない部分をこんなに詳しく授業で取り上げるのか」といった風に、ただ一人でザンビアを見るよりずっと多くの収穫があった。また、研修後に授業を作り上げていく上で、ザンビア滞在中に知り合った方々にメールなどでもう一度詳しくお話を伺ったり、授業内容の相談に乗っていただくことができて内容を深めることができた。 この研修に参加していない人も実践できるようにビデオやパワーポイントを整理し、指導案を書いたので、ぜひほかの中学校でも地理の授業で取り上げていただきたいと思っている。

参考資料：

※単元を構想、授業実践する上での教員または学習者のための参考資料、ウェブサイト、データリソースなどを紹介してください。

※他の教員でも授業実践できるよう、**本時**で使用した資料(ワークシートパワーポイント、写真、動画などのデータ)を、別添にて必ずご提出ください。

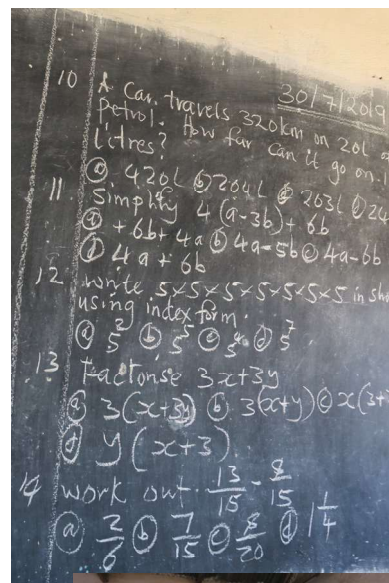
A 医療について

- ・ザンビアの医療は基本的に無料
- ・都市部には大きな病院があるが、地方に行くと「ヘルスセンター」と呼ばれる小さな診療所のようなものしかない。そこには看護師はいあるが医師がいない。
- ・農村部では各家が離れているのでヘルスセンターまで2, 3時間病人が歩いてくることもふつうである。
- ・ヘルスセンターでは手におえない大きな病気やけがは病院がある町まで運ばれることになるが、救急車を呼んでも来なかったり、自力で車を頼んで運ぶ場合も何時間かかるのであきらめる場合もある。
- ・コレラやマラリアなどの日本では流行らない病気で命を落とす人もいる。
- ・国民の8人に1人がエイズ患者
- ・一見元気に見える人でも、慢性的な栄養失調状態の人もかなりいる。
- ・5歳児以下検診では栄養不良だと診断される子がいる。すぐに命の危険がある状態ではないが、その後の発育に影響を与える危険性もある。
- ・小学校以降の身体測定がない。
- ・泥水を飲んだことによる下痢や歯のトラブルも多い。→健康に対する知識が少ない
- ・死因の上位は、マラリア、結核、肺炎などの感染症(うつる病気)
- ・安全な水を手に入れられる人の割合は都市で86パーセント、地方で50パーセント



B 教育について

- ・ザンビアの小中学校は基本的に児童生徒が多い。
- ・農村部の学校では1000人の児童生徒に対して先生が20人
- ・都市部と農村部では、英語のレベルに差がある。都市部のほうが英語レベルが高い。
- ・教科書の書き写しに近い授業が多く行われている。
- ・コンピューターの科目が国家試験にあるのに、農村部の学校にコンピューターがないので教科書でしか教えていない。
- ・教室不足のため午前の部、午後の部と生徒を入れ替えているところもある。
- ・生徒一人一人に教科書が行きわたらない。
- ・理科の実験道具などが足りないので、体験的な学習ができない。
- ・算数のレベルが特に低い。
- ・農村部では電機が通っていない学校もあるため、雨の日などは暗くて授業にならない。
- ・ノートや筆記用具を変えない児童生徒もいる。
- ・テスト問題を印刷する紙を買うお金が学校にないので、テスト問題は黒板に書いたものを生徒が写してノートに答えを書いて提出している。
- ・農村部の学校ではマジックなどもほとんどないので掲示物などがあまり作れない。
- ・授業料は近年無料になったが、制服代やその他のお金が用意できずに途中で退学してしまう子もいる。



C 貧富の差について

- ・首都の公務員のひと月の給料は20～30万円。
- ・首都にはたくさんのショッピングモールがあり、豊かな人たちはそこでの買い物を楽しんでいる。
- ・豊かな人は外国製のものや車を使ったり、ネイルサロンや美容室などでもおしゃれを楽しんでいる。
- ・外国の高級ホテルもいくつもある。
- ・農村部の現金収入は1か月で2000～3000円。
- ・国全体ではこの20年でGDPが4倍になったが農村部の暮らしはそんなに変わっていない。
- ・豊かな家の子どもは私立の学校にいて、海外留学をしたりするケースもある。
- ・首都ルサカにはたくさんのストリートキッズがいる。親に捨てられた子、親からの暴力がひどすぎて家を抜け出してきた子など。
- ・ストリートキッズを保護する孤児院(こじいん)もあるが数が足りていない。
- ・コレラという伝染病は汚い水を通して流行るので、スラムでは特に病人が多かった。
- ・スラムでは水道が各家庭にないので、たくさんの家庭が共同で外にある水道を使っている。



本日の目標



DEVELOPMENT  GOALS

1. エキスパート教材の読み取り

- ・資料の名前《 》
- ・資料から特に大事だと思ったこと、印象に残ったこと

2. ジグソー学習

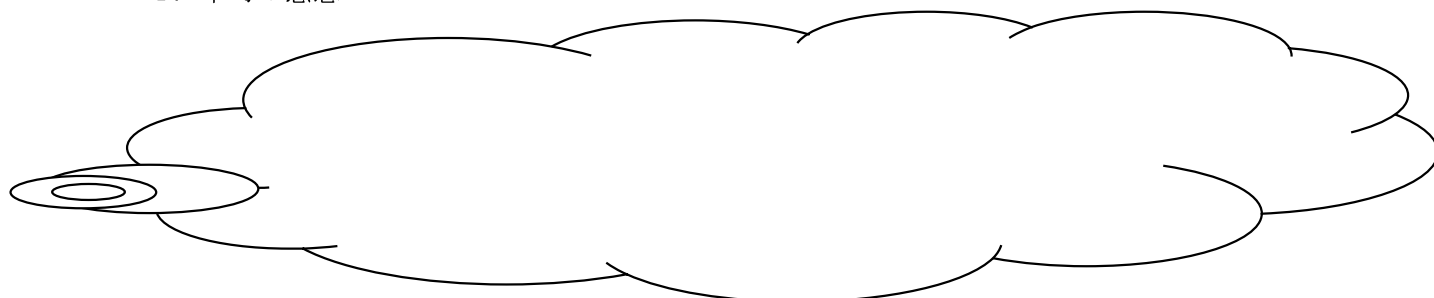
ほかの人の資料

内容

3. 今後のザンビアの課題としてもっとも重要だと思うものは？

班で選んだ番号	理由

4. 本時の感想



同じ質問をザンビア
で活動する日本人3
人に聞いてみました

原田さん
農村部のヘルスセンターで健康関係の仕事を行う



17

永井さん ザンビアの小学校で青年海外協力隊として働く



9

安川さん JICA協力隊のサポートを行う



4

日本のスコア（Index Score）は78.5で世界で15位（SDGs Global Rank.156か国中）ということがわかります。個別のゴールで見てみると目標5（ジェンダー）、目標12（責任ある生産と消費）、目標13（気候変動）、目標14（海の豊かさ）、目標17（パートナーシップ）が低いことがわかります。

ページ下部を拡大してみましょう。



「CURRENT ASSESSMENT -SDG DASHBOARD」欄には目標別の達成状況が色別に示されています。目標4（質の高い教育）はよい状態にあることがわかります。

日本の達成状況

▼ CURRENT ASSESSMENT – SDG DASHBOARD

